

日本をキリストへ 協力

2

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1
OSCCビル日本福音クルセード気付
TEL 03-295-4414



水が流れ出ていた

会長 本田 弘 慈

一 足首から

伝道団体の足首がしっかりしないとイケません。足首とはいったい何をさしているのでしょうか。

① 聖言の土台、聖書信仰

② よい組織

③ 着実な経営

二 ひざに

① 謙遜、ひざまづく姿勢

② 礼拝と祈り、一切の栄光を神に帰す姿

③ 他者の意見を聞く姿勢

三 腰に

① 充実した奉仕が積み上げられていくこと

② 大胆な信仰をもって前進すること

③ 他者へのかえりみ、思いやり、弱い団体のことをも思いみるべきです。

四 渡ることでできない川

ブラジルのアマゾン川はいくつもの川がひとつになっ
ています。

① 幻 イザヤ五十四章にあるように幕を上げよう。

② 協力 ピリピー一章27節

霊をひとつにするとは幻をひとつにすること。
心をひとつにするとは愛の交わりです。

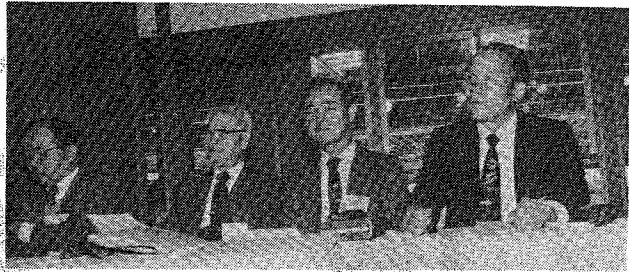
ともに奮闘するとは力を合わせての協力です。

日本宣教の長い歴史をみてみますと、日本宣教は前進していると思います。多くの困難や障害はあるでしょう、他の国々と比較すると成長の度合は急速ではないかもしれませんが、でも確実に進んでいると思います。このことを認識して、希望をもって前進していこうではありませんか。

エゼキエル四七章はイスラエルの回復の預言が書いてあります。水は神の恩寵をあらわしています。神殿の敷居はキリストの十字架を暗示しています。さて、この神の恩寵の水が流れ出ていく、つまり伝道の業が進んでいくところに、12節に見るような結果をみる事ができるのです。もちろんその前の11節には障害のあることを指し示めています。これらのごとく伝道団体の活動をあわせて思いめぐらしてみましよう。

これから皆さんとご一緒に日本宣教のために教会に仕え、主に仕えてまいりましよう。水の流れるところ、みな栄えていきますように。

箱根一泊 研修懇談会 報告



日本キリスト伝道会 書記

三川 茂

伝道団体相互の理解、教会との深い理解を得るため、伝道団体連絡協議会の一泊研修懇談会が箱根小涌園を会場に十一月十四日から十五日にかけて行なわれました。

一九八二年八月、第十四回日本伝道の幻を語る会において、「一千万救霊を祈ろう！」というビジョンが与えられ、日本の総福音化のために神より与えられた使命と信じ、具体的な活動が始められました。一千万救霊戦略委員会が組織され、種々戦略の方策を立てておりますが、その中の一つが各種伝道団体との協力統合という課題でありました。それが、今回、神の奇しきお導きにより、大同団結、連絡協議会として発足しましたので、両手を挙げて参加した次第であります。

さて、一泊研修会には、加入四三団体のうち、二六団体三八名が出席いたしました。開会礼拝で本田弘慈先生より奨励をいただきました。(一頁参照)

参加者の自己紹介をしながら、所属団体の紹介や宣伝を行ない、理解を深めました。その際、どの団体においても財政的に困難であることが語られたので、本田先生が九項目にわたる財政増加の秘訣について教示され、大変参考になりました。

夜はあかしと祈りで、祝福のあかし、直面している課題、伝道団体連絡協議会への

期待などを話し合い、祈りました。

二日目、懇談会では、伝道団体連絡協議会のフェスティバルが出来ないだろうかという問題提起がなされ、話し合いました。時期、会場、動員、駐車場、テーマ、準備、方法、教会との連繋、利益の還元、運営、費用、一回りか継続的か、その他討論いたしました。

分科会では、右記問題をベースにして、文書、視聴覚、伝道・青少年と分かれて懇談いたしました。実に有意義な語り合いと交わりの時でした。

最後に全体報告会がありました。各組とも時間が足りない程に、熱心に話し合いが行なわれたようです。伝道団体のスペンチャリストの集まりでありますので、それぞれの分野に立って、教会との結びつきや協力関係をどう発表させていくか、情報交換の場としてのフェスティバル的な事を開催すること希望する声が強くなりました。また、このような一泊研修懇談会を毎年行なって欲しい旨の要望もありました。

私もたいへん刺激を与えられ、次回を期待して山を下りました。

(日本同盟基督教団

三島六反田教会 牧師)



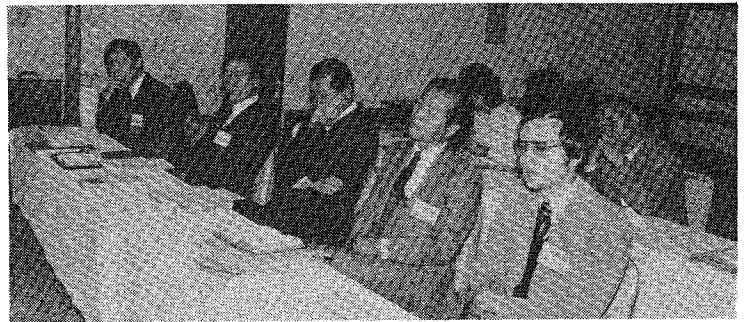
小川吾朗

「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。」
(イザヤ四四19)

一九八五年十一月に箱根で開催された伝道団体懇談会に参加させていただいた時、右記のみ言葉がこころに浮んでまいりました。懇談会に参加した加盟団体の代表者の方々のお話や報告、交わりの時を通して、主がこの日本に新たな事を開始されたことを強く意識させられました。それは日本の福音化のために、主が備えた記念すべき新たな一歩であったからです。

私の感じた新しさとは、第一に50に近い各種伝道団体が一つの目的の下に結集し、行動を共にしようとしていることです。かつてなかったこうした動きは、一伝道団体として日本の福音化の一端を担わせていただいている私共にとって大きな励ましとなりました。そこに「共に立つ」者達が生み出す協力の新たな力強さを感じたからです。

第二は、自立した日本の各種伝道団体の姿を見たことでした。自立に至る道は困難な荒れ地の旅であったかもしれませぬ。その労苦は言葉に言い尽せぬものがあつたことでしょう。しかし、自立の道を達成した信仰の力強さは、今後の日本に於ける福音の前進を主が約束して下さっているようで、新鮮な思いがいたしました。こうした団体が多くあることは、今、自立の道を目ざしている団体にとっても大きな励ましとなることでしょう。



第三は、教会との協力関係というあまり触れてこなかったテーマが、正しく、聖書の理解のもとで取り上げられ、お互いの不信感を取り除く場が設けられたことです。協力を妨げるサタンは、小さな不信の種を大きく取り上げ、教会も団体をも非協力の方向へと走らせます。私達が謙遜を学び、協力の知恵を上からいただく場が与えられたことに、主に感謝しております。今年はお茶の水学生キリスト教会館内で「伝道団体フェスティバル」(仮称)が開催されようとしております。こうした機会を通して、教会に仕えてゆく伝道団体の姿勢の内容を明らかにし、



教会と伝道団体の理解を深めることができれば幸いです。こうした新たな希望とは別の恵みをも懇談会で受けることができたとした。それは、同労者の皆様の深く練られた信仰に触れることができたとした。良き信仰の友は、主よりの良き宝です。私達が豊かな宝を共有し合うことによって、伝道団体間の協力も活発になってゆくことでしよう。今後の働きが永く主に用いられる為に、焦らず、無理のない協力関係が主の導きのもとで進められていくことを祈っております。

新加盟団体紹介

● 日本教会成長研究会△伝道▽増田誉雄
101 東京都千代田区神田駿河台二ノ五 お茶の水キリストの教会
☎ 29110478

● 新生運動△文書▽ロアルド・リーダー

352 新座市石神一ノ九一三四 ☎ 04247412212

● 福音主義医療関係者協議会△伝道▽黒住一昌

371 前橋市朝日町三ノ二〇ノ二〇 前橋キリスト教会内
☎ 027212415549

● キリスト教社会人伝道会△伝道▽西本誠一郎

583 藤井寺市小山八ノ八四〇ノ三二 ☎ 072913913107

● 日本CBMC△伝道▽鈴木留蔵

101 東京都千代田区神田駿河台二ノ一 OSCC内 ☎ 29310610

● 日本ニュー・メディア宣教会△視聴覚▽峯野龍弘

160 東京都新宿区百人町一ノ一七ノ八 淀橋教会内 ☎ 36819165

伝道団体 Festival '86 (仮称)

ひとつでも多くの教会とひとりでも多くのクリスチャンに伝道団体の存在と働きを知っていただく。伝道団体相互の理解と交わりの場としよう。協力のあかしとしての催物にしていこう。

はじめの試みが今年六月に行なわれようとしています。まだ正式の名称は決まっていませんが、一応、伝道団体フェスティバルとしておきましよう。期日は六月十二日から十五日までの四日間です。

このフェスティバルのために、伝道団体連絡協議会の中に、フェスティバル実行委員会が別に組織され、伝道団体連絡協議会の常任委員会は、諮問及び企画委員会として実行委員会の動きをチェックする機構になっています。

長年伝道活動をしてこられた団体も、またつい最近誕生したばかりの団体も、みんなで心一つにして取り組めるフェスティバルにしたいと考え、諸企画や参加の仕方を検討しています。

左記にいくつか考えられていることを紹介させていただきますが、その他アイデアがありましたら、ドンドン事務局にお知らせくださいませうようお願いいたします。

会場はお茶の水学生キリスト教会館の全館を開放していただいて、使用させていただきます。八階の大チャペルとロビーが特設の展示場と計画されています。参加諸団体が趣向をこらして自己紹介、PRをいたします。無料でいただける多くの印刷物や品物がきつとあることでしょう。

そればかりではなく、セミナー、講演会、コンサート、映画試写会、VTR試写、放送スタジオの公開など、諸団体の専門分野がいかなく発揮されるいろいろなプログラム、催物が計画されることと思えます。

さらに協賛企業のご協力をいただいて、抽選によるプレゼントを考えたと思います。飲食のコーナーもつくりたいですし、各教会の週報展示、各教会のバンド演奏会なども企画したいとも考えています。

諸教会から多くのクリスチャンの皆さんが会場を訪れてくださることを心から願っています。このフェスティバルで得た情報が今後の教会活動、伝道活動、教会学校活動に大きな助けとなることでしょう。

目下、四五伝道団体が伝道団体連絡協議会に加盟していますが、より多くの団体がこのフェスティバルに参加してくださることを期待しています。

主の栄光のあらわれを祈りつつ。

● 発行日 一九八六年二月一日
● 発行者 本田弘慈 ● 編集者 姫井雅夫